

令和2年1月28日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清 風

報告者： 門脇俊照

実施場所：鹿児島県出水郡長島町	実施日：令和2年1月22日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 少子過疎・超高齢化・財源不足など不安が山積する本市が元気な市になるためのヒントを求めて「日本で一番元気な町」を目指す長島町で視察研修。 長島町は人口約9,900人、面積116㎢ 橋で渡られる島。	
■参考とすべき事項 食料、自然エネルギーの自給率が100%を超え、あわせて、出生率2.0前後で全て島内で持続・循環することが可能な島で、長島町では「長島大陸」と命名し、外部に発信されている。 平成27年、国の地方創生人材育成支援制度を発案した総務省の井上貴至氏を副町長に抜擢、日本一若い副町長が誕生、日本一元気な町を発信。 長島町を支え、育てる人材育成と人材のヘッドハンティング（長島わくわくプロジェクト） ○日本一充実した外部有識者との意見交換 ○長島の感性を磨く旅 ○職員の市町村総合交流 ○職員の採用年限撤廃 ○長島大陸の歴史・民族への理解 ○地方創生の右腕登用（地域おこし協力隊の活用） 町長や職員は積極的に国や県に出向き町のPRや有利な補助金を必死で探す。 「ぶり奨学ローン」回遊魚で出世魚の鰯のように、地域で育った人材が世界各地で活躍すること、そして、ふるさとに戻って活躍することを願って創設。 高校生3万円 大学生5万円 専修学生5万円 本市でもおこなわれているが違いは、窓口が鹿児島総合信用金庫、審査も銀行が行う返済の領収書を役場に出して資金とする。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 長島町の基本方針 従来型の安易な補助金による人の誘致は、これまでの無目的・無戦略な企業誘致と同様に、他市町村との過剰な競争に陥りかねない。 社会減少が続く町では転出の抑制と転入の増加を図ることが重要。 転出の抑制には雇用の確保、基幹産業である農業・林業のブランドづくりが必要。 転入増加のためには、婚活・出産・子育て支援の拡充。	

令和2年1月28日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：清風

報告者：門脇俊照

実施場所：鹿児島県鹿屋市柳谷（やねだん）	実施日：令和2年1月23日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 行政に頼らず住民自治で地域を再生している現場を訪ねる。 高齢化、人口減少が進み集落維持が出来ない状況を打破するヒントを視察研修。 本市の地域維持は自治振興区制で運営費の多くは市の補助金に頼っているのが現状である。	
■参考とすべき事項 柳谷集落（通称やねだん）110世帯235人が暮らす自治公民館長の豊重哲郎さんは235人全員の名前を言えると言われた。館長就任時は高齢化で耕作放棄地が増え、人口減が進んでいた。集落には地域活動や婦人部、青年部も無く、住民の8割は地域活動に無関心。館長として提案したのが、行政にも頼らない自主財源での地域おこし。補助金頼みでは人も集落も育たない。自分たちの問題を自分たちで解決するのが住民自治だと熱く語られた。 「やねだん」ではカライモを栽培し、芋焼酎・土着菌肥料・トウガラシなどを生産加工し財源確保。使い道は、孤独死対策警報器、シルバーカー貸与、85歳以上の高齢者に1万円ボーナス、青少年対策で寺子屋塾、ピアノ教室などの実施。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 民間でも役所でも強烈な人材が不可欠。特に地方の自治体では若者たちの芽を「つぶさないこと」若い世代の力を発揮できる環境をつくり続ける必要がある。 リーダーは自分の利益より他人を優先。民あり己ありの精神で楽しく続ける。本市に最も欠けていることを学んだ研修だった。	

令和2年1月28日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清 風

報告者： 竹内光義

実施場所：鹿児島県出水郡長島町	実施日：令和2年1月22日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） ・長島町は、九州本土とは異なる気候や自然環境の中で、遣唐使船やオランダ船の到来を始め独自の文化・歴史が育まれた。また海・山・大地を生かして、ほとんどの住民が生産者であり、食料及び自然エネルギーの自給率が100%を超える。あわせて、出生率も2.0前後で推移しており、島内で持続・循環することが可能であり、言うなれば一つの大陸（長島大陸）である。一番の魅力は、穏やかな気候で育った住民の笑顔と大陸を愛する気持ちである。	
■参考とすべき事項 ・長島町が（日本一元気な町）と表明した経緯と施策、効果 国の地方創生人材支援制度を発案したのが、井上貴至（当時は総務省職員）である。平成27年度から2年間、長島町に派遣されて副町長に着任した。日本の地方創生の町を目指すことに使命感があり（日本で一番元気な町）ということで情報発信を始めた。また、マスコミを味方につけ全国に長島町の名を広めるのに一生懸命で、常にマスコミとコミュニケーションをとり、町での出来事をマスコミにメール発信し続けた。 花と石の町づくりを進める長島町として、年間を通して協力企業とのパートナーシップで沿道の花壇の花植えや除草作業を続けて、地域が一体となった観光資源の保全や活性化に取り組んでいる。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ・時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携することで、交流人口の拡大等に積極的に取組み、長期的な人口減少は避けられないが本市も、長年の課題である公共施設の最適化を図ることが不可欠である。 また高校が存在しない長島町では、多くの高校生が寮生活を余儀なくされ、若者の流出があり、子供が高校・大学等に進学したときに、寮費等進学に必要な費用を保護者に支給する「ぶり奨学金」を平成28年4月からスタートして子どもを育てやすい環境を整えた。「ぶり奨学金」は、回遊魚の鰯にちなみ、高校・大学卒業後、長島町に戻ってきた（回遊）場合は、その期間の奨学金の返還を免除して、それぞれの分野で地域のリーダーとして活躍（出生）することを期待している。	

令和2年1月28日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清 風

報告者： 竹内光義

実施場所：鹿児島県鹿屋市	実施日：令和2年1月23日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）	
<p>・「やねだん」とは 鹿屋市串良町上小原にある集落で約300人が居住している。通称「やねだん」では、サツマイモや焼酎といった加工品、土着菌や手打ちそばなどの販売により集落独自の財源を築いた。このことから地域活性化の一例として全国的に注目されている。</p>	
■参考とすべき事項	
<p>・平成8年に豊重哲郎さんが柳谷集落（通称やねだん）の自治公民館長に就任した。 その当時の「やねだん」は、高齢化が進んで耕作放棄地や空き家が増えていた。地域活動や婦人部・青年部もなく住民の8割は地域活動に無関心だった。豊重館長が提案したのが、行政に頼らない自主財源での地域おこしである。補助金頼みでは集落も人も育たない。自分たちの問題を自分たちで解決するのが住民自治であり、自主財源を確保するためにコミュニティビジネスに取り組んだ。具体的には休耕地を借りて住民総出でサツマイモの栽培に取り組み、高齢者や子ども、孫たちの出番を畑に求めたことで、コミュニティスクールの受け皿となった。</p>	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）	
<p>・住民自治とは 「地域で出来ることは地域で行う」という理念のもと、集落住民が営農活動に自主的ボランティアで参加している。「やねだん」では人は宝・人財として一人ひとりを地域づくりの重要な資源・財産と位置付けている。説得ではなく納得してもらうための目配り、気配り、心配りをモットーに、住民に対して3年間忍耐、我慢と粘り強い働きかけで「地域で出来ることは地域で行う」という住民自治の理念が集落住民に浸透した。 本市でも数人の職員が故郷創生塾で講義を受けている。 地域再生には、良きコーディネーターと良きリーダーが不可欠である。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清 風

報告者：赤木忠徳

実施場所： 鹿児島県出水郡長島町 日本一「元気な町」の極意を学ぶ	実施日： 令和2年1月22日
<p>■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）</p> <p>国の地方創生人材支援制度を発案した井上貴至（総務省）が自ら平成27年度から2年間派遣され日本一若い副町長に着任した。日本一の地方再生の町を目指すことに使命感があり「日本一元気な町」ということで情報発信を始めた。マスコミが記事にするのは、一番や最初に〇〇を実施する表題であるので、「日本一元気な町」を付けて発信し続けた。島を大陸と置き換え「長島大陸食べる通信」を発刊し、全国にアピールし、阪急交通社と連携し、ツアーを実施して年間3,000人の客を長島に送り込んでいる。ITや教育、デザイン、食の専門知識のある人材を地域おこし協力隊に登用し地方再生の一役を担っている。また、長島町を舞台にしたドキュメンタリー映画及び「夕陽のあと」を制作し全国に長島町の名をPRしている。移住・定住についても、空き家改修に専門知識が必要であると考え、大手企業と連携を図っている。</p>	
<p>■ 参考とすべき事項</p> <p>地方再生の取り組みが基幹産業の魅力を高め、住民と「交流」を育み、移住・定住につなげていき、婚活、出産、子育て支援の拡充や「美しい長島づくり」により、暮らしやすい環境をつくり、総合戦略に基づいた事業を実施した。事例1として、移住及び定住による地域活性化を図るため、空き家改修費支援事業を実施した。目標が活性化であるため、支援対象を法人、家主、借主、店舗、事務所に拡大した点が注目される。これにより、Iターン32名、Uターンが23名、合計55名の定住へとつながった。また、地域おこし協力隊員有志7名でゲストハウス交流拠点を改修した。事例2として長島大陸映画を製作した。事例3は、長島大陸食べる通信である。これは、食材付きの通信を年4回3,780円で発刊し、づくり手の思い、地元ならではの食べ方などストーリーをのせ、地域の紹介に一役を担っている。事業が単発でなく、全てが地域の活性化にベクトルが一致している。</p>	
<p>■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>「美しい長島づくり」の推進は、長島町のふるさと景観条例を施行し、沿道修景に住民総参加で取り組んでいる。役場職員も執行者や課別に範囲を定めて整備清掃をしている。この姿を見て、82団体1,400名が構成員になって、町民総出で奉仕している。素晴らしい!!</p> <p>また、課長自ら積極的に研修、視察に出向き、新しい方向性を探っている姿は、庄原市に見えない点である。それに基づいて、国県の予算獲得に積極的トライしている。</p> <p>基本的には、国の予算獲得は担当者が詳しく熱意をもって説明しないと成果が出ないし、将来にわたって国県の担当者に名前を知って頂けるような関係を構築すべきである。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清 風

報告者：赤木忠徳

実施場所 ：鹿児島県鹿屋市柳谷 行政に頼らない「むら」おこしの極意・理念を自治館長豊重哲郎氏から学ぶ	実施日 ：令和2年1月23日
■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など） 地方創生担当大臣だった石破茂氏は「日本全国で高齢者が増え、若者、子供がいなくなる。子供が生まれない。そして人口が減る。そういう深刻な状況を見続けてきた。『やねだん』の存在は聞いていたが、正直あまりにいい話なので、半信半疑だった。しかし、今回訪問してこんな集落が本当にあるのだということが分かり、驚いた。」と驚嘆した。その後、数々の表彰を受け、小泉環境大臣など国の要職者の訪問が続いている。年間6,000名の視察、150回以上の講演をこなす豊重哲郎氏に連絡したところ、快諾して頂いた。「庄原市、懐かしいな」という言葉も頂いた。市の職員を初め8名が2泊3日の故郷創世塾の地域再生リーダー養成講座に参加していたのである。	
■ 参考とすべき事項 「補助金頼みになると制約が増えるばかり。自立心が失われ、真に地域のためにはならない。自分のことは自分でやるのが当たり前だ。」「リーダーは命令形で指示してもダメだ。」「情熱で人を動かし、感動で感謝の心を養うことが重要だ。」「補助金頼みになると、アイデアが出てこない。」と訴える。牛も豚も産出日本一の鹿児島県、特にやねだん集落のある大隅半島は畜産がさかんで、戸数の4分の1が畜産業（牛600頭、豚7,000頭）で、大量に排出される糞尿の悪臭対策に長年悩み続けていた集落であり、『住んでよかった』、『住んでみたい集落』ではなかった。豊重氏は55歳で公民館長となった。うなぎの養殖においてヘドロの除去に微生物を利用した経験から鹿児島大学にも協力を願い、ぬかと黒糖そして山林で白くなっている糸状菌がいる土を採取して毎日水分調整とかくはんをしたものを3週間後配付し、家畜のえさにまぜて食べさせ続けたところ、半年後、「糞尿の匂いがしなくなった」「畜舎にハエがいなくなった」など高評価を得た。また、さつま芋を栽培し、芋を原料とした焼酎など製造販売をして、自主財源を得た。 これでも、全ての住民が一枚岩になったわけでもなかった。しかし、自治放送施設を利用して、母の日、父の日、敬老の日子どもや孫からメッセージを録音して流したところ、頑固な長老が感涙し、これを機に地域の輪が一段と強くなった。自主財源の一部は、地域の皆さんに1万円のボーナスとして配付し、その他は地域のための設備や活性化に活かされている。	
■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 地域の全ての住民の年齢別に棒グラフにし、10年後、20年後にはどの様に変わっていく事が想像出来る様に表している。これにより地域の危機感から積極的に関わっていく事になっている。また地域の全員の写真を公民館に貼り、赤ちゃんが生まれたら、地域全員でお祝いをする地域へは、芸術家や若者が移住して来ている。空き家が出来ると、皆さんで改造して迎賓館に再生している。何もない地域でも、温かい地域には人が集まる。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。